

国文学科

郷土文芸実地踏査

さる2月2日に、民俗文芸講読（郷土文芸）の後期文学散歩が実施された。前期（9月22日）は猛暑の中汗だくの見学であったが、今回は対照的に厳寒の中、白い息を吐きながら行われた。参加者は学生が19名、引率教員が2名の計21名で、学園のバスを利用した。

見学地としては、室の八島・下野国府跡・風土記の丘資料館・三叡山の万葉歌碑・浅沼八幡宮のおしどり塚、村檜神社・大慈寺・小野小町のお墓、そして最後に大中寺を見学し栃木駅で解散となった。前期・後期ともに十分な成果を得ることができたと思う。



大中寺で記念撮影

家政学科

赤十字救急法救急員講習

家政学科二年生養護教諭課程履修者20名を対象に、日本赤十字社による講習が12月20日、21日の両日、指導員2名を招いて行われた。この講習は一年次に基礎講習を受講し、認定証を持つ学生が次のステップに進むための講習となっている。学生たちは熱心な受講態度で、今回も全員が認定試験をクリアし、救急員の資格を取得した。今後、これらの知識と技術を活かし養護教諭として学校現場や地域社会のあらゆる救急現場において活躍を期待したい。

フード系見学会

暮も押し迫った12月22日、フードスペシャリストを目指す一年生5名を対象にフード系見学会が実施された。

まず栃木県南公設地方卸売市場を訪問し、市場の役割等に関する説明を受けた後、花卉のせりを見学した。学生たちは市場の大きさや廃棄された包装材の処理方法に感銘を

受けていた。

次いで、道の駅思川を経て、フレンチレストラン向日葵でティーブルマナーを学びながら昼食を摂った。午後は、森永製菓小山工場を訪問した。本工場は日本の菓子業界で初めて環境マネジメントISO14001の認証を受けており、徹底した衛生管理と環境保全の取り組み方を体験した。少人数の見学会であったが、フードス



森永製菓株式会社小山工場で記念撮影

ペシャリスト取得に向けて大きな刺激を受けたようである。

初等教育学科

第33回定期演奏会

毎年恒例の定期演奏会は、今年で33回目を迎え、1月30



力強く歌い上げる本学合唱団

日午後2時から、栃木市文化会館大ホールで行われた。第1ステージの本学合唱団による学生歌「芙蓉を仰ぐ」によりコンサートはスタートを切った。続いて初等教育学科一年生女子と本学合唱団、それに本学合唱団OGを合わせて総勢約100名による女声合唱組曲「旅」、次に初等教育学科一年生男子と二年生の合唱と室内楽研究会のアンサンブルで「明日があるさ」「涙そうそう」のステージ。小憩後、第2部は室内楽研究会による打楽器アンサンブルや「おじいさんの時計」など四つのグループの器楽合奏の演奏があり、続いて、小川裕二教授の独唱。いつもと趣向を変え、「さとうきび畑」を演奏した。

第3部は本学合唱団の演奏で、「富山に伝わる三つの民謡」などが力強いハーモニーで歌い上げられ、今年の定期演奏会を閉めくくった。充実した内容の演奏会となり、学生達の表情も満足気であった。

教育実習・保育実習

初等教育学科一年生小・幼コース35名を対象に、2月14日から2月18日まで教育実習IIが行われた。栃木市の5園に26名、2校に9名が赴いた。同じく幼・保コース40名を対象に、2月14日から2月26日まで保育所実習Iが行われた。栃木市の6園に8名、岩舟町の2所に2名、小山市の8所に10名、宇都宮市の4園に5名、さくら市の2園に2名、真岡市の3所に3名、下野市の4園に4名、鹿沼市の2園に2名、佐野市の2園に2名、足利市の2所に2名が赴いた。いずれも初めての実習であったが、これまでの学びを基本にした総合的な実践の様子が見られた。しかし、風邪等の欠勤が例年よりも多かったことを考えると、自己管理の徹底、配慮が喫緊の課題である



保育園のマラソン大会でメダルをもらい満面の笑みの園児たち

といえる。実習後の学生からは、「自身の学びを問い直すきっかけが得られた。」などの感想があり、教職や保育に携わる専門職に対する認識と今後の方向性が明確になったようだ。何よりも、教育・保育の営みを通して、子ども理解をさらに深めてほしいと願う。

デイサービス観察

初等教育学科幼・保コース二年生の総合演習（石川昌紀講師担当）履修者を対象に、さる12月20日、栃木市にある障害児通園施設「キッズホームとちぎ」へ観察・調査に赴いた。8月12日に続き二度目となる今回は、縦断的発達の変化を捉え、保育臨床的視点

での子ども理解を深めるねらいがあった。当日は、子どもたちとのかわり、講話、専門職と母親へのインタビュー調査を行った。総括として、専門職と当該施設の役割・魅力を明らかにした結果から共同でリーフレットの作成をした。療育・養育・保育の機微を通して、子ども・親・専門職の思いを探究できた学生たちは、今までの保育の枠組みから保育観を再考できたと確



実際に子どもたちとふれ合い理解を深める

信する。管理責任者の厚木悦子先生からは、学生の育ちが実感できたとお褒めの言葉をいただいた。諸先生方のご尽力に感謝申し上げたい。

筑波大附属小観察

2月17・18日の両日、社団

法人「初等教育研究会」による「学習公開・初等教育研究会」が筑波大学附属小学校（東京都文京区）を会場にして開催された。

この研修会では、各教科や道徳、総合的な学習、英語活動、学校保健活動などの授業が公開され、公開された授業をもとに、徹底した討議が行われた。午後からは、全国の優れた研究者や実践家による発表や討議が行われた。来年度から新教育課程が完全実施されることもあり、どの会場も熱気にあふれていた。

参加した学生にとって貴重な体験ができた一日であった。

日本史学科

卒業研究発表会

2月23日、本学園教育センターにおいて、國學院大學栃木短期大学史学会総会ならびに日本史学科卒業研究発表会が開催された。史学会総会終了後、卒業研究の口頭発表が行われた。また、二階アトリギャラリーで卒業研究ポスター発表が実施された。口頭発表は、次の通り。



発表はプロジェクターなどを使って行われた

小林めぐみ（古代史）

「古代の服飾
——高松塚古墳を中心に——」

沼子なつき（中世史）

「香から観た武士の文芸」

山形 美樹（近世史）

「化政期における幕府政治の研究」

中澤 真二（近代史）

「幕末・維新期における武家の女性史」

大島 育恵（考古学）

「日本犬の成立と歴史」

川島 千春（東洋史）

「魏の太祖曹操の研究」

商学 科

日産自動車工場見学

2月3日、商学科一年生を



興味深く展示車に見入る学生

対象にした工場見学会が行われた。見学場所は、栃木県上三川町にある日産栃木工場である。教室に集合して事前説明をしたあと、12時に目的地へ向けて出発した。工場見学は13時16分から15時16分まで行われた。最初に広報ビデオが上映され、日産職員から工場の概要説明があった。その後、約一時間のコースで製造工程を見学した。見学後、日産職員から100%電気自動車「LEAF（リーフ）」について説明があった。最後に、学生から出された様々な質問への丁寧な回答を受け、16時18分に帰校した。